

平成22年度の評価システム(案)

使命目標	指標	相当する21年度項目
I 美術を通じた交流を促進する		
①広く認知され、多くの人にとって観音崎を訪れる契機となる。		
達成目標	・年間観覧者数10万人以上	①-a.年間観覧者数 ①-b.年間来館者数 ①-d.パブリシティの状況 ①-e.アクセス満足度(認知度)
実施目標	・広報、パブリシティ活動を通じて、広い層に美術館の魅力をアピールする。	②-a.企画展集客率 ②-e.リピート率
②地域住民、学校と連携し、市民に親しまれる。		
達成目標	・児童生徒造形作品展を開催し、14000人以上の動員 ・ボランティア企画イベントを年3回以上実施し、一般参加者300名以上 ・ボランティアによる事業サポートへの参加者数のべ200名以上 ・ボランティア活動への参加者数のべ300名以上 ・ボランティアへの登録者数30名以上	①-c.市民率 ③-f.周辺諸施設との連携 ⑥-a.児童生徒造形作品展の開催 ⑦-a.プロジェクトボランティアの活動状況 ⑦-b.サポートボランティアの活動状況
実施目標	・ふだん美術館に関心を持たない層を含めた市民が、美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	
II 美術に対する理解と親しみを深める		
③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。		
達成目標	・年間5本(造形展を除く)の企画展を開催し、満足度(補正值)70%以上。 ・所蔵品展および谷内六郎展の展示替えを4回行い、満足度60%以上。 ・外部講師による講演会、アーティストトークなどを年■回開催し、参加者のべ■名以上。 ・外部講師によるワークショップなどを年■回開催し、参加者のべ■名以上。 ・学芸員によるギャラリートークを年■回開催し、参加者のべ■名以上。	②-b.企画展の満足度 ②-c.所蔵品展の満足度 ②-d.谷内六郎展の満足度 ③-e.図書室の満足度 ④-a.展覧会の開催 ④-b.講演会などの開催 ④-c.一般向けワークショップなどの開催 ④-d.ギャラリートークの実施 ④-e.学芸員による論文等の充実
実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6本(造形展含む)の企画展を開催する。 ・所蔵図書資料を充実させる。 ・多くの人々が気軽に利用できるよう図書室の環境を整える。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	
④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。		
達成目標	・児童生徒造形作品展を開催する。 ・小学校美術館鑑賞会を実施する。 ・中学生のための美術鑑賞教室を開催し、参加者計150名以上。 ・子ども向けワークショップを年5回以上開催し、参加者のべ■名以上。	⑥-a.児童生徒造形作品展の開催 ⑥-b.小学校美術館鑑賞会の受入れ ⑥-c.中学生のための美術鑑賞教室の開催 ⑥-d.研修等の受入れ ⑧-a.子ども向けワークショップの開催 ⑧-b.アーティストと出会う会の開催
実施目標	・学校と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。	

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。		
達成目標	・年間10点以上の作品を収集。 ・収蔵施設について、年間2回の環境調査を行う。	(所蔵品展、谷内六郎展の開催) ⑨-a.作品収集の状況 ⑨-b.保存修復の状況 ⑨-c.所蔵作品の貸出状況
実施目標	・収集方針に基づいた主体的な収集活動をする。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復を行う。 ・所蔵作品がひろく価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	
Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する		
⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。		
達成目標	・館内アメニティ満足度80%以上。 ・スタッフ対応の満足度80%以上。	③-a.館内アメニティ満足度 ③-b.スタッフ対応の満足度 ③-c.ミュージアムショップの満足度 ③-d.レストランの満足度
実施目標	・建物のイメージを守るうえでじゅうぶんなメンテナンス、館内清掃を行う。 ・美術館としての空間イメージを保ちつつ、利用者にわかりやすい掲示、案内表示を行う。 ・思いやりのある来館者サービスを展示監視業務受託事業者と協力して行う。 ・利用者のニーズに応じたレストラン運営を事業者と協力して行う。 ・利用者のニーズに応じたミュージアムショップ運営を事業者と協力して行う。	
⑦バリアフリーを実現する。		
達成目標	・福祉関連講演会を年1回開催し、参加者30名以上。 ・福祉関連ワークショップを年1回開催し、参加者10名以上。 ・障害児を対象としたワークショップを年12回開催し、参加者のべ100名以上。 ・託児サービスを実施し、利用者のべ40名以上。	⑤-a.福祉とアートをテーマとした講演会の開催 ⑤-b.障害児者を対象としたワークショップの開催 ⑤-c.障害者施設、高齢者施設などの受入れ ⑤-d.託児サービスの実施
実施目標	・ソフト、ハード両面からのバリアフリー化を推進する。	
⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する		
達成目標	(財務指標) ・展覧会事業費／観覧者数(年間) < 800円 ・管理事業費／来館者数(年間) < 850円 など	⑩-a.開館日 ⑩-b.開館時間 ⑩-c.財務状況
実施目標	・職員すべてが費用対効果をつねに意識し、計画的な支出を行う。	